

【姿の期 11月】

京都市立下京中学校
校長 安居 昌行

「違った角度・視点からみるということ」

「あの山は比叡の山ではない」四百年余り前、明智光秀の娘（のちの細川ガラシャ）が結婚のため、生まれ育った坂本（滋賀県）から京の町に入り、家来が“比叡山が見えます”と声をかけられた時に語った言葉です。琵琶湖側からの山（比叡山）しか見ることがなかった彼女にとって、同じ山でも反対側から見た山は比叡山ではなかったのです。見る視点、角度によって山のみならず様々な事象も違って見えることがあります。

最近『鳥獣人物戯画』の“新発見”についての話を読みました。巻物のうち「丙巻」にはいくつもの墨の“汚れ”があります。今回保存修理の中で「丙巻は料紙の随所に墨の汚れが散見される。その中で特徴的な墨の汚れが、丙巻中の他紙の反転した図像と一致することに気付いた」（『国宝鳥獣戯画と高山寺』図録、鳥獣人物戯画修理時に判明した新知見について大山昭子）という発見です。墨の汚れは単なる汚れではなく、裏に書かれた絵の一部が、反対側に染み出てきたものであることに気付いたのです。そして、元々紙の両面に絵が描かれたものをはがして一枚の巻物にしていることを大山さんは突き止めたのです。これまで数百年だれもが気付かなかった“汚れ”の原因を様々な角度から観察し、考えることによって見出された発見でした。

私たちの生活や学習の中でも、違った角度からものを見直したり、なぜだろうと異なる側面から考えたりする中で、新たな気付きや発見、今までわからなかった問いの答えを見つけたりすることがあります。また、日常から離れた空間での活動（例えば学校祭、職場体験、茶道体験など）のなかで、今まで気付かなかった「自分」を発見したり、友だちのこれまでとは違った姿に気付いたりしたことはありませんか。違った角度・異なる視点で物事を見たり、社会のできごとを考えてみたりすることは、自分を大きく成長させるきっかけにもなると思います。そのためにもたくさんの人や本との出会い、体験をこれからもたくさんしてほしいと思います。



〈琵琶湖側からみた比叡山〉